

[16] 文學研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/2557041>

出版情報：文學研究. 16, 1936-07-28. 九州文學會
バージョン：
権利関係：



雜 錄

佐藤助教著「獨和言林」

佐藤助教數年の擔まざる努力の結晶たる「獨和言林」が四月に誕生した。

著者佐藤先生は日本語に對する深い愛の所有者であり、理解者である。この點において單なる獨逸語學者とは大なる逕庭がある。

これはこの書を繙けばすぐにわかることであつて、こゝではすべての獨逸語が日本語によつて完全に料理され、咀嚼され、消化されてゐる。まこと先生がいはれた如く「ドイツ人がドイツ語を研究するとは全くちがつた文化的意義」をこの書はもつてゐるのである。

まづこゝではドイツ語は固定的なものとしてではなく、辯證法的發展の相において示されてゐる。従來の多くの辭書に見られる様な對譯的なやり方は全然改められ、まづはじめに Kluge によつて正確な語原がかゝげられ、種々な意味への轉化が一目瞭然と示されてゐる。たとへば

Kappe (中世の羅. *cappa* 又は *capa* は帽子附のマントを表はした、これがマントと帽子の二義に分れて色々の國語に入つた、例へば 英 *cap* 帽子、*cape* 肩掛；佛 *chape*、その縮小形

chapeau が邦語に入つて「ソナツボ」；スペイン語及びポルトガル語の *cappa* が邦語に入つて「合羽」) 1) 眞巾附外套と云ふ又

Pack (知蘭 | 英の *pack* に應ず) 1) 包、束；荷物、行李。2) (行李を搬送する、輸運隊の意から) 下司兼、腰民、ごらつき；となり、我國の「×××××が兵隊ならば、嚙々蹄踏を踏のふや」
と云ふ俗語と考へ合せて自ら微笑を禁じ得ないものがある。

blind (英の *blind* に應ず；※ *Blending* の前半と同根 =、まじれる、濁れる) 1) a) 曇れる、朦朧たる *Glas*, *Metallfläche* usw. b) 暗き *Nacht* usw. ; ~ *er Gehorsam* 盲従。2) 失明せる盲目の；*auf einem Auge* ~、片目見えぬ；*der Blinde* (ein . . . der) 盲人。3) 目に見えぬ、隠れたる；~ *e Kippe* 暗礁。4) 空の、實質なき、偽の、實の ~ *er Angriff*、佯攻 ~ *e Fenster* (描かれた) にせ窓、飾窓 (…中略…) *Blinddarm* 盲腸 (下に孔なき故名つゝ、→ *blind* 4)。

以上の例は九牛の一毛にも過ぎないが、これによつて本辭典のいかに優れたものであるかは想像できる。夫々の語に應ずる英語の照應せしめたこと、言葉の意味を歴史的に又は心理的に述べたこと、基本語と派生語との關係を瞭然たらしめたこと、更に各語の用法を示して文法的機能を明かにし文法辭典の實をも兼ね具へてゐること等本辭典を手にした人の等しく快哉を叫ぶ所以である。

又前置詞及び前綴の精密な分析も本辭典の一大特色をなすもの

彙報

獨文學會

「獨和言林」出版祝賀會

佐藤助教著「獨和言林」の誕生を機として六月二十日(土曜)
日)新三浦において祝賀會を行ふ。小牧教授、佐藤助教、内藤
講師、獨文關係卒業生、學生多數出席。

支那學會

一、五月十六日(土)、新入學生歡迎兼會員懇親ハイキングを
基山に試む。

一、六月十日(水)、午後七時半より支那留學中の山室三良副
手の歡迎座談會を、橋口町風洲屋階上に開催す。山室副手よ
り支那學界、特に北平哲學界の現状の詳細なる報告あり、種
々會員間に質問あつて、十時盛會裡に閉會。

一、六月二十日(土)、午後一時より第二學生集會所に於て例
會開催。庄野副手の卒業論文發表あり。

題目「沙門法琳の研究」。

であつて、獨逸語學界における劃期的な企といふことができる。
元來前綴のもつ細かなニュアンスを味倒するのは獨逸語を學ぶ者
の困難とする所であるが、本書では前綴の意義は Paul-Eulings,
Deutsches Wörterbuch に準據して分析されてゐるのみならず、
前綴をもつ動詞はすべてこれと夫々照應して説明されてゐるので
ある。例へば *ver-*といふ前綴を幾多の項目に分つて分析し、
*ver-*を有する複合動詞、たとへば

ver-halten * [()] 1) (*ver. 1d*) (*zuhalten*) 守(る); 2)
(*ver. 3*) a) (方) 支へる; 維持する。b) 持(方) *sich*~, 留
る, 滞在する。c) 抑へる, 抑する, 我限する; 下略……

更に又この例にも見られる様に、綴の切り方を示し、右肩の *
印にて強變化又は不規則變化動詞なることを示し、類語、反對語
を掲げたこと等著者の細かい心盡しの程が何はれる。

以上の外本辭典の特色は多くあるが、本書を手に入れば直ちに
わかることであるから割愛することにする。

私は本書を手にして、前にも述べたことであるが、一頁一頁に
にじみ出る様な日本語に對する先生の愛と理解に深い敬意を表は
すと共に、この一事をもつてしても一般語學研究者の机上を飾る
價值があると信ずるものである。(白水社、並製四圓、特製五圓)

(犬山朴)